

森分先生のご退官によせて

薬学部長 篠田 純 男
(前環境管理センター長)

永らく環境管理センターの有機廃液部門長を務められた森分俊夫先生が本年3月31日に岡山大学を定年退官され、岡山大学名誉教授の称号を受けられました。先生は昭和52年、本学に有機廃液処理設備が設置され、無機廃液処理設備と合わせ持つ施設として環境管理施設が発足した当時から大学の環境管理に携わってこられ、排水管理、特にご自身の専門である有機化学領域で使用頻度の高い有機溶媒の廃液処理・処分管理に多くの貢献をして来られました。従って、森分先生を語るときにはセンターの歴史を振り返ってみなければなりません。

昭和49年に水質汚濁防止法が改正されて、大学・研究所等も特定事業場としての規制を受けることになったことに伴い、岡山大学では昭和50年に無機廃液処理設備を設置して特殊廃液処理施設を発足させました。同施設は、昭和52年には有機廃液処理設備を導入して、翌年環境管理施設に名を改め、さらに昭和57年に洗浄排水部門と生活排水部門を加えて環境管理センターとなりましたが、森分先生は平成8年に尾坂明義教授と交代されるまで18年間にわたり有機廃液部門長として岡山大学の有機廃液の適正処理に尽くされました。特に有機廃液処理設備が設置された時には、試運転の間、業者及び技官を指導して処理方法の確立に尽力され、さらに処理マニュアルである「有機廃液部門利用の手引き」の作成に当って中心的な役割を果たされました。また、本誌「環境制御」の前身である「環境管理施設報」の発刊、関係法令集、英文概要、環境資源科学研究成果集等の編集、発行にも尽力され、環境教育ワーキンググループの世話人として当センターを利用した環境教育の実施に努力されました。現在多くの学部で実習の一環として行っているセンター施設の見学は先生が道をつけられたものです。その他、技術開発室長、技術相談室委員など環境管理センターへのご貢献は多大なものがあります。

先生は第六高等学校から京都大学工学部に進まれ、大学院修了後、京都大学助手を経て昭和36年に岡山大学助教授として赴任、昭和46年に教授昇任されています。専門は有機合成化学で複素環化合物の新合成法の開発を中心に研究業績をあげて来られました。私は、やや研究の方向が異なりますので研究面でのお付き合いは少なかったのですが、毎年入試の化学の採点が終わったあとでの化学系教官懇親会で、先生と飲みながらお話しするのが楽しみでした。そして、昭和57年からは、私自身も洗浄排水部門長として先生とともに環境管理センターのお手伝いをする事になり、以後色々な面でお世話になって来ました。

ご退官前の数年間はやや体調を崩されて、あの豪快な飲みっぷりが見られず寂しく思っておりましたが、その後お身体も回復され、名誉教授称号授与式でお目にかかった先生はお元気そうで安心致しました。今後は十分に健康に留意されてご活躍されるよう祈っております。